

<牧会ミニ通信>No.28 2020・11・15

「周東のぞみキリスト教会」の信仰基準として「ハイデルベルク信仰問答（ハ問答）」を正式に採用したのは今年の8月の礼拝からでした。何故、あらためて、教会はハ問答を採用する必要があるのでしょうか。

旧新約聖書は66巻あります。あまりにも膨大な書です。しかも、多様な啓示の内容を含んでいます。その全てを理解し把握することは、誰にとっても、至難です。教会の信仰告白といえば、初代教会が現在の内容となるまで、約8百年を要したという「使徒信条」であり、教団・教派の告白、「教憲」ではないのでしょうか。

顧みますと、明治・大正・昭和という時代を経て、大半の教会は、簡易信条をもって良し、としてきた面がありました。そのため、「上からの権威」と向かい合うことになると、信仰簡条を恣意的に変容して解釈し、時代に妥協してきた苦い経験があります。

玖珂町周東町に宣教を始めて、既に半世紀が過ぎました。成熟した、健全な、骨格のしっかりした教会形成がなされてもいい頃です。

「ハイデルベルク信仰問答」は成立するその過程において、「ウルジーヌス」・「オレヴィアーヌス」という二人のオランダの神学者が重要な役割を果たしました。しかし、ハ問答は単に個人の業績にとどまりません。成立する過程において、たびたび教会会議が繰り返され、練り直され、修正しながら勝ち取られた所産として、ハ問答が成立したのです。

ハ問答が、今日も、プロテスタント教会の諸教派を超えて、かなり広い領域において愛読されてきたひとつの理由は、霊と真とをもって礼拝し、主イエス・キリストの教会に仕えようとする者たちが、正しく聖書の啓示全体の姿を把握し、信仰に生きる者に慰めとは何かを語り続けてきたからです。そのあたたかい情熱の所産によります。

それで、諸教会において、今日も、違和感なく、礼拝において、口を合わせ、心一つにして、問答書を用いて告白するようになりました。

周東のぞみキリスト教会：牧師 結城晋次